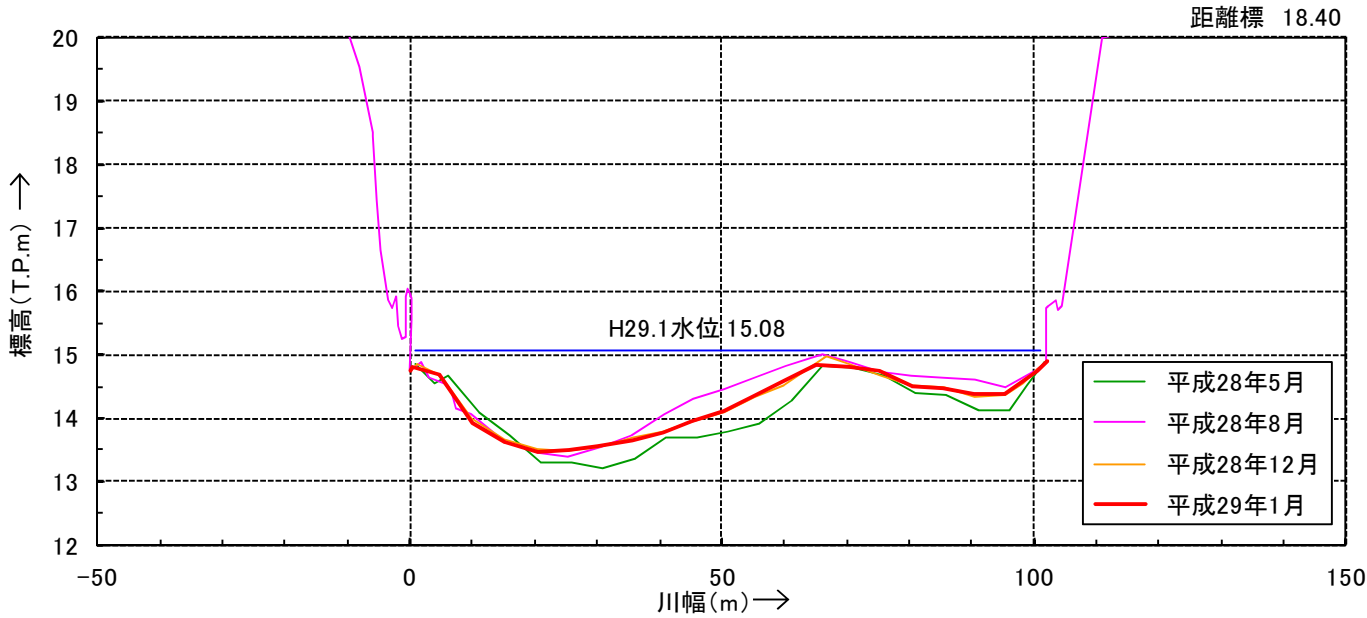


4) ダム下流環境 (18k400)

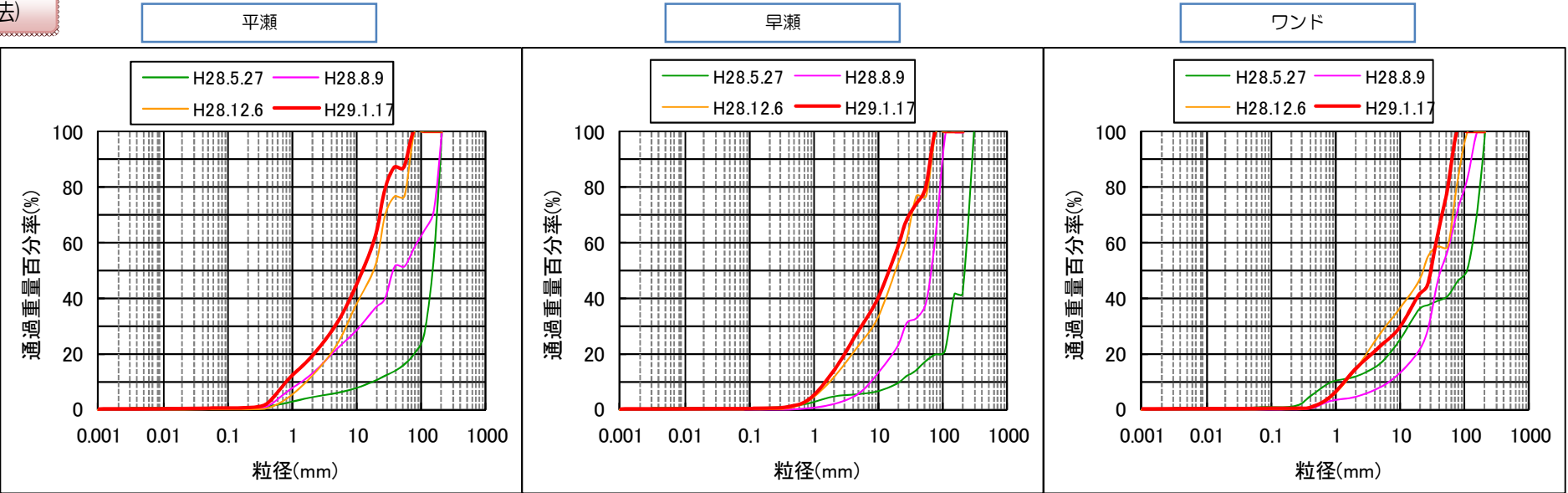
【参考資料 I -211 参照】

評価項目	視点	平成 28 年度の調査結果概要
みお筋撤去後の土砂流出に伴うダム下流環境の変化状況	物理・生物環境の変化状況把握	〔横断形状〕 1 年間で、最大 70cm 程度変動した。春季から夏季で堆積し、夏季から秋季で洗掘した。 〔粒度組成 (面格子法)〕 春季から秋季にかけて、平瀬及び早瀬で細粒化が進行した。 〔浮石状態 (シノ貫入度)〕 平瀬及び早瀬では春季から夏季に増加した後、漸減していた。ワンドの貫入度は変動していた。

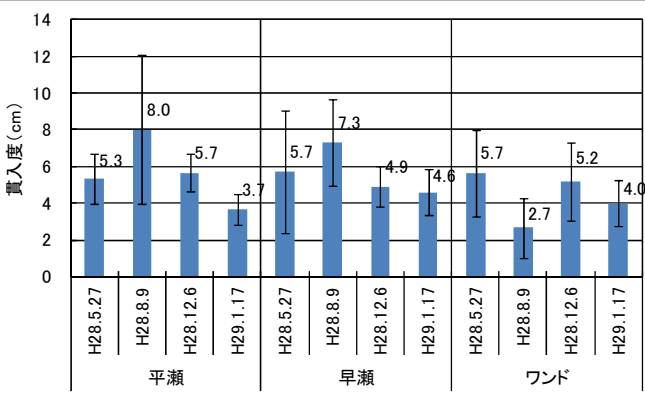
横断形状



粒度組成 (面格子法)



浮石状態 (シノ貫入度)

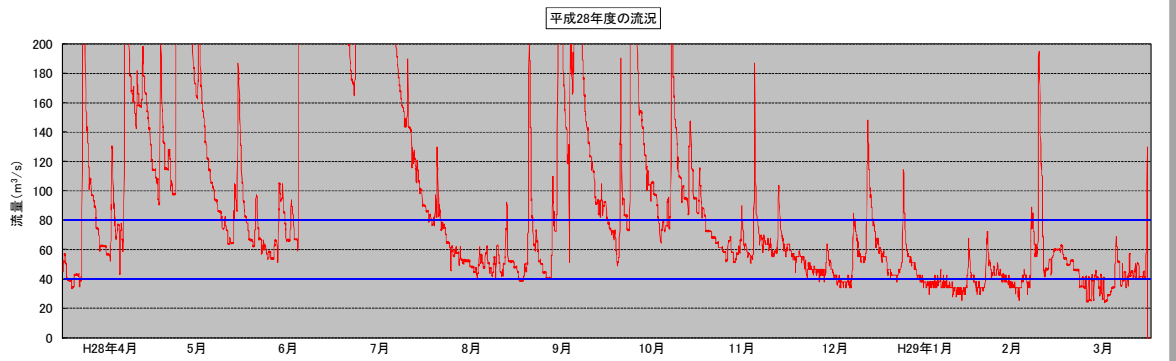


調査の実施状況

調査項目	春	夏	秋	冬
物理的環境	平成28年5月27日 (65m ³ /s)	平成28年8月9日 (60m ³ /s)	平成28年12月6日※2 (52m ³ /s)	平成29年1月17日 (37m ³ /s)
生物的環境	平成28年5月27日 (65m ³ /s)	平成28年8月8日 (65m ³ /s)	平成28年10月20日 (76m ³ /s)	平成28年1月10日 (57m ³ /s)

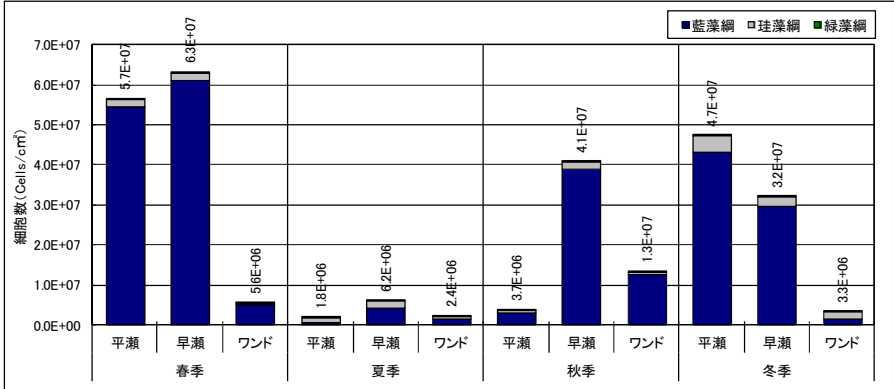
※1 () 内の数字は荒瀬換算日平均流量

※2 秋季に河床が低下し、荒瀬換算流量で50m³/s以下でなければコドラート内写真撮影ができない状態であった。しかし、10月21日～11月は出水で流量が70m³/s以上が多かったため、秋季の物理的環境調査は12月6日となった。

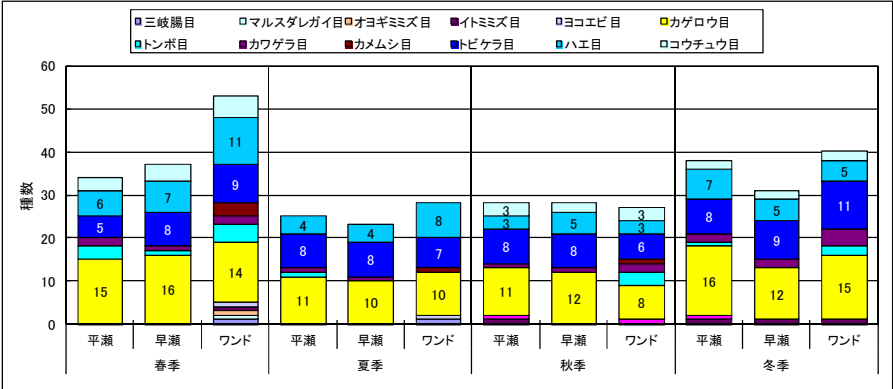


評価項目	視点	平成 28 年度の調査結果概要
みお筋撤去後の土砂流出に伴うダム下流環境の変化状況	物理・生物環境の変化状況把握	〔付着藻類(細胞数)〕 早瀬及び平瀬では春季から夏季に大きく減少し、年間の変動が大きかった。ワンドでは早瀬及び平瀬と比較して細胞数密度が低く変動が小さかった。 〔有機物・無機物、クロフィル a・フェオフィチン〕 有機物・無機物の比率は、年間の変動が小さく、有機物の比率は 20～30％程度であった。クロロフィルの比率は、細胞数密度と同様に、春季から夏季に大きく減少していた。 〔底生動物〕 種数（定性調査）は、早瀬及び平瀬は春季から夏季で減少し、夏季から冬季にかけて漸増する傾向が見られた。ワンドは春季に確認種数が多かった。 〔魚類〕 秋季から冬季にかけて、全種数及び純淡水魚の種数が減少していた。オイカワの体長は春季～夏季と比べて、秋季～冬季は小さかった。

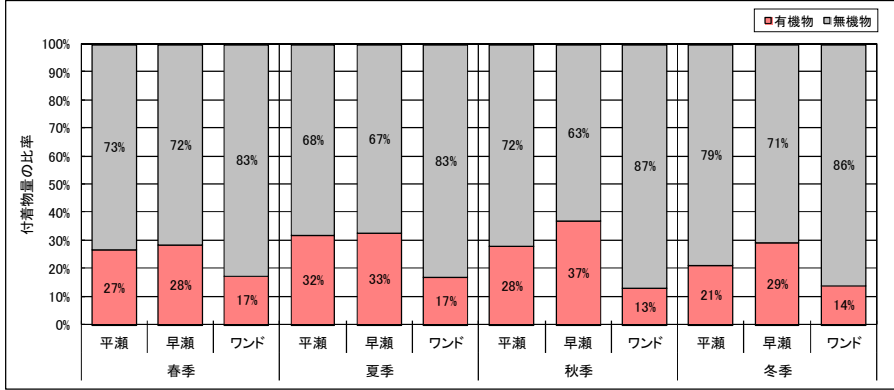
付着藻類(細胞数)



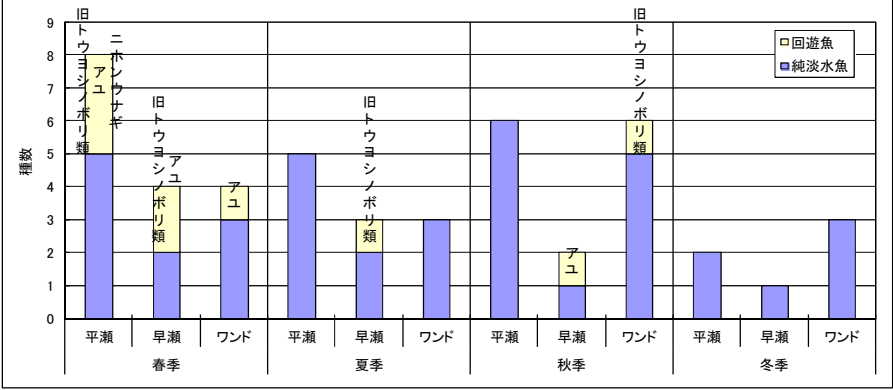
底生動物



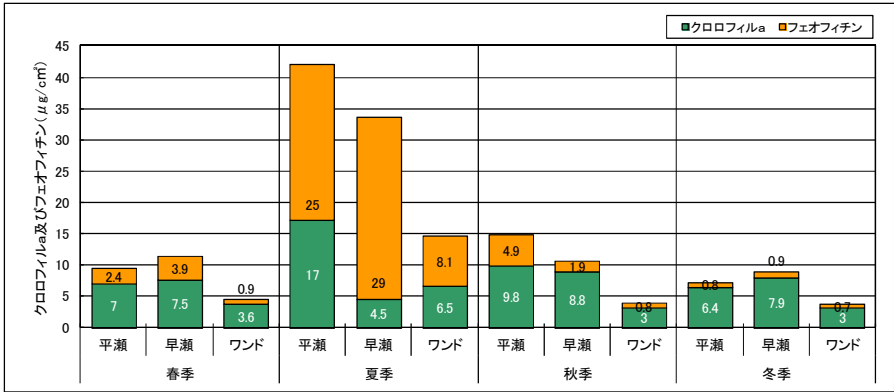
有機物・無機物



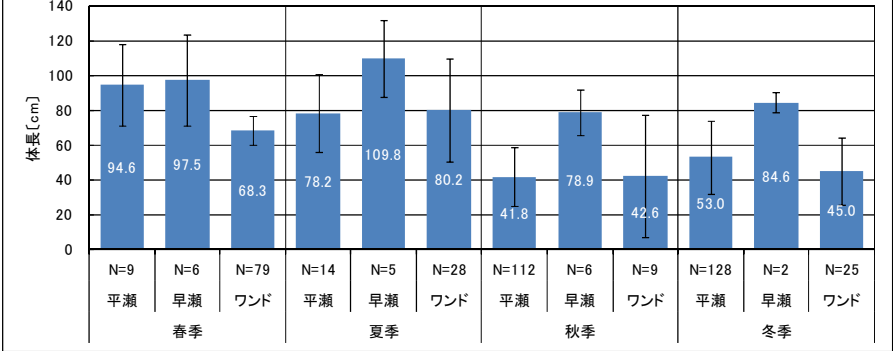
魚類



クロフィル a・フェオフィチン



オイカワ_体長



調査項目				平瀬	早瀬	ワンド
物理的 環境	横断形状			－	18K400	－
	底質	浮石状況		○	○	○
		粒度組成	コドラート内写真撮影	○	○	○
			面格子法		○	○
生物的 環境	付着藻類			○	○	○
	底生動物	定量採集		○	○	○
		定性採集		○	○	○
	魚類			○	○	○

